C 76　高齢者の食事満足度に影響を及ぼす要因

山口女大家政　　足立蓉子

目的　わが国の高齢化は急速に進行して、高齢者のみならず他の人々の生活にまでとまどいを生じさせ、あらためて高齢化社会における構成員のあり方が問われている。本報では高齢者の食のあり方を明らかにする目的で食事満足度とそれに影響を及ぼす要因について考察する。

方法　調査は住民一覧表（1988年3月現在）より65才以上の男女434名を無作為に抽出した対象者に、質問紙による個人面接法で行った。調査内容の項目は大きく2つに分けられる。1つは食事の満足度に関するもの、もう1つは満足度に影響すると考えられる要因に関するものである。満足度に関する調査項目は、①食事はおいしいですか、②食事は楽しいですか、③食べたいものを食べていますか、④食べたいだけたべていますか、⑤食事は待ち遠しいですか、⑥食卓の雰囲気は明るいですかの6項目とした。満足度に影響を及ぼす要因の調査項目は57項目を設定した。分析方法は χ^2 検定の結果より主要な要因を精選したのち満足度を外的基準として数量化Ⅰ類による解析を行った。

結果　数量化Ⅰ類の分析結果から高齢者における食事の満足度は食事量や欠食状況など食生活に関する直接的要因とともに、健康、家族関係、経済など食生活にかかわる間接的要因も影響を及ぼすと考えられる。なお13要因と食事満足度との重相関係数は0.56である。各要因の満足度への規定力を偏相関係数及び範囲からみると、「食事量」が最も高く、つぎは「地域」である。以下「欠食状況」「生きがい」「健康」「運動」「食習慣」「夕食の状況」「食材料の状況」「家族関係」「世帯構成」「経済状況」であった。